



公立大学法人名古屋市立大学

環境報告書 2025

[令和7年度版]



1. 理事長メッセージ

近年、気候変動の進行に伴う異常気象や自然災害の大規模化、資源・エネルギー問題など、地球環境を取り巻く課題はますます深刻化しています。このような厳しい環境の中で、私たちには持続可能な社会の実現に向けて課題解決に取り組み、より良い未来を創造していく責任があります。

本学は、環境問題への取組をはじめとする教育・研究活動を通じて、次代を担う人材を育成するとともに、国際的な視点から社会課題の解決に資する研究成果を発信し、さらなる社会貢献を目指しています。



理事長
郡 健二郎

2012年に環境憲章を制定し、基本理念とそれに基づく7つの基本方針を立て、計画目標「アクションプラン」を策定しました。2022年2月に策定した「名市大未来プラン2021」を着実に実行するため、2023年1月に「研究科等未来プラン2021」を策定し、環境に配慮した持続可能な社会の実現のため、継続して環境負荷の低減と環境の保全に努めているところです。

近年、SDGs(持続可能な開発目標)の達成に向けた大学の役割はますます重要となっています。SDGsに対して、大学がいかに取り組み、社会に影響を与えているかを可視化したランキング「THE サステナビリティインパクトレーティング2026」が、本年6月に発表されました。本学は、総合ランキングにおいて世界401-600位、国内同率8位に、SDG3「すべての人に健康と福祉を」では、世界同率67位、国内2位にランクインしました。これまでの本学の環境問題等への取組みが高く評価されたことに誇りを持ちながらも、より一層活動を高めてまいります。

本報告書を通して、本学の環境安全確保の活動への、温かいご理解とご支援を引き続き賜りますようお願い申し上げます。

2026年9月

公立大学法人名古屋市立大学

理事長

郡 健二郎

2. 環境マネジメントシステム

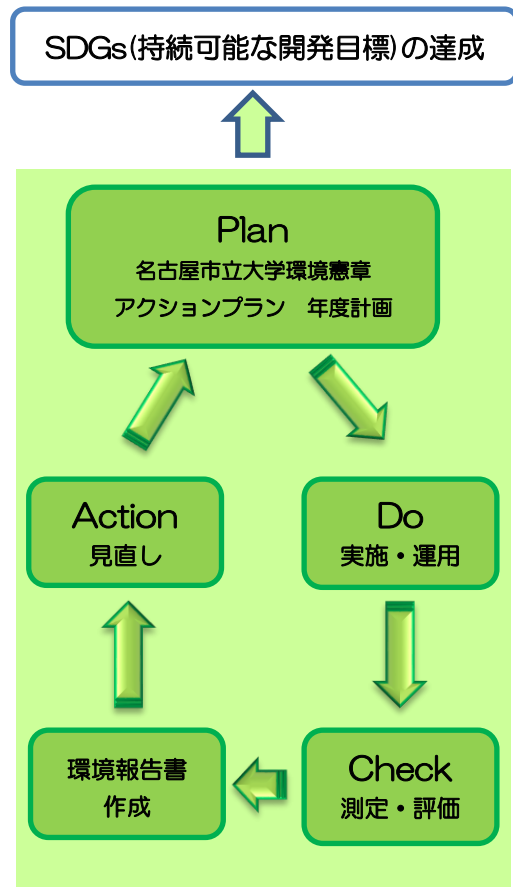
(1) 環境マネジメントシステム

組織や事業者が、その運営や経営の中で自主的に環境保全に関する取り組みを進めるにあたり、環境に関する方針・目標を自ら設定し、これらの達成に向けて取り組んでいくことを「環境マネジメント」といい、このための事業所内の体制や手続き等の仕組みを「環境マネジメントシステム」といいます。

本学では、環境憲章で定めた基本方針の実現のために、基本方針の各項目について3年間の計画目標(アクションプラン)及び具体的な取組目標を定めています。

右図に示すPDCAサイクルを名古屋市立大学の環境マネジメントシステムの体系と定め、同システムの継続的改善により、さらなる環境への取り組みを進めていきます。

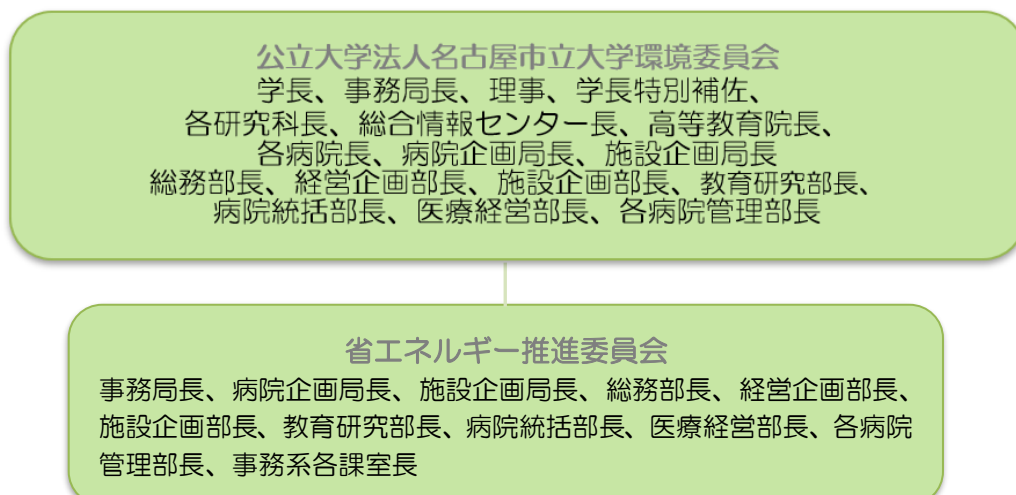
これらの計画達成を通じて、国連サミットで採択されたSDGs(持続可能な開発目標)に積極的に取り組みます。



(2) 推進体制

環境負荷の低減及び環境の保全に取り組むための全学委員会として、副理事長(事務局長)を委員長とする公立大学法人名古屋市立大学環境委員会を設置しています。3年間の計画目標(アクションプラン)及び具体的な取組目標についても、環境委員会において審議しています。環境委員会には、省エネルギーの取り組みを推進するため、省エネルギー推進委員会を設置しています。

令和7年度時点



3. 名古屋市立大学環境憲章

平成 24 年 4 月 1 日制定

〔Ⅰ〕 基本理念

人類の様々な活動が地球環境に大きな負荷を与えているという現実の中で、環境負荷の低減と環境の保全に努めていくことは、教育研究活動を通じて次世代を育成し、社会に貢献する大学の使命である。

名古屋市立大学では、様々な危機に直面している地球環境を救うために、幅広い専門分野の教育・学術研究・社会貢献活動を可能にする総合大学としての特徴を活かし、以下の基本方針に掲げる環境保全活動を積極的に推進する。

〔Ⅱ〕 基本方針

- 1 環境問題への理解を深める教育を推進し、将来、持続可能な地球環境を保全し、環境問題に取り組んでいくことのできる意欲ある人材を育てていく。
- 2 学生の学内、地域社会、国内外における環境保全活動への自主的な参画・取り組みに対して積極的に支援していく。
- 3 生物多様性の保全に関連する学術研究等を推進する。
- 4 環境に関連した公開講座、シンポジウム等を地域社会や企業などと連携して開催し、地域社会に貢献する。
- 5 環境負荷低減のために、環境マネジメントシステムに沿って行動計画（アクションプラン）を策定し、キャンパス内で省エネルギー・省資源に積極的に取り組み、実践していく。
- 6 物品調達に際してグリーン購入の推進を図るとともに、設備・機材等の利用にあたって廃棄物の減量化とリサイクル資源の活用を推進していく。
- 7 環境マネジメントシステムを絶えず見直すとともに、環境保全活動の成果（環境報告書）を広く社会に公表していく。

SDGs (Sustainable Development Goals : 持続可能な開発目標) とは

SDGs とは、誰一人取り残さない持続可能でよりよい社会の実現を目指す世界共通の目標です。2015 年に国連サミットにおいて採択された「持続可能な開発のための 2030 アジェンダ」の中で掲げられました。17 の目標 (SDG) と 169 のターゲットから構成され、先進国を含む全ての国が取り組む目標です。

令和元年 7 月、本法人の設立団体である名古屋市は内閣府より SDGs 未来都市に選定されました。また本学では、SDGs 達成に向けた活動の推進を目的として、令和 3 年 5 月に名古屋市立大学 SDGs センターを設立しました。

- SDG 1 貧困をなくそう
- SDG 2 飢餓をゼロに
- SDG 3 すべての人に健康と福祉を
- SDG 4 質の高い教育をみんなに
- SDG 5 ジェンダー平等を実現しよう
- SDG 6 安全な水とトイレを世界中に
- SDG 7 エネルギーをみんなにそしてクリーンに
- SDG 8 働きがいも経済成長も
- SDG 9 産業と技術革新の基盤をつくろう
- SDG 10 人や国の不平等をなくそう
- SDG 11 住み続けられるまちづくりを
- SDG 12 つくる責任つかう責任
- SDG 13 気候変動に具体的な対策を
- SDG 14 海の豊かさを守ろう
- SDG 15 陸の豊かさを守ろう
- SDG 16 平和と公正をすべての人に
- SDG 17 パートナリーシップで目標を達成しよう

17 の目標は、生産や消費など経済に関する課題、健康や教育など社会に関する課題、自然やいきものなど環境に関する課題の 3 つの分野から構成されています。

このうち、環境報告書においては、主に環境に関する課題について、本学が取り組んだ事項を、7 つのアクションプランごとに報告いたします。

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS
世界を変えるための 17 の目標



4. アクションプランの取り組み状況

令和7年度 アクションプランの年度取組目標の達成状況

基本方針	令和7年度の具体的な取組目標	自己評価	参照ページ
1	教養教育及び専門教育において、各学部・研究科のカリキュラムや専門性に合わせた環境関連科目を継続して開講し、その充実を図る。	◎	P. 7
2	① SDGs センターとして各種イベントに参加し、取組内容を発信する機会を学生に提供する。SDGs センターHP や SDGs News Letter を通じて学生の取組内容を紹介する。 ② 大学祭でごみ・資源の分別を促すエコステーション（回収所）を設置。各キャンパスの自治会や課外活動団体による開学記念日一斉清掃を実施する。 ③ 国連食糧機関（FAO）の海外事務所に学生最大3名を派遣してインターンシップを実施する。	◎	P. 9
3	① 生物多様性研究センターを中心に、生物多様性の現状把握や保全に関連する研究を行うとともに、生物多様性に関わる名古屋市等の関連部署や活動団体と協働し、高校生をはじめとする市民に生物多様性の大切さを啓発する活動を行う。 ② 環境分野に係る外部研究資金獲得に向けて関係各所管課室を通じて学内の研究者に公募情報を発信するなど研究支援を行う。	◎	P. 12
4	① 本学が主催する公開講座や他機関との連携講座などで、環境に関連したテーマの講座を開催する。 ② 名古屋市等が開催する環境や SDGs に関連したイベントに出展し、本学の取り組みの発信を行う。	◎	P. 14

基本方針	令和 7 年度の具体的な取組目標	自己評価	参照ページ
5	① エネルギーの使用に係る原単位を年平均 1%以上低減する。水道使用量について、前アクションプラン期間（令和 3～5 年度）の平均使用量以下となるよう節減に努める。 ② 名古屋市「市民の健康と安全を確保する環境の保全に関する条例」に基づく地球温暖化対策計画書に掲げる温室効果ガス排出量の抑制に係る目標の達成に取り組む。 ③ 年間の自動車燃料使用量について、車両一台あたりの使用量が令和 5 年度の一台あたりの使用量以下となるよう削減に努める。 ④ 両面印刷や集約印刷、不要となった用紙の裏面利用、ペーパーレス会議の拡充等により、職員一人あたり、年間の用紙使用量が前アクションプラン期間（令和 3～5 年度）の平均使用量以下となるよう削減に努める。 ⑤ 職員一人あたり、年間の一般廃棄物の排出量について、前アクションプラン期間（令和 3～5 年度）の平均排出量以下となるよう削減に努める。 ⑥ 環境省が作成した「廃棄物処理法に基づく感染性廃棄物処理マニュアル」を基に医療廃棄物の適正な処理を行う。医療廃棄物の分別方法について院内にて研修や掲示を通して周知を行う。 ⑦ 〈施設再編整備での取り組み〉新棟建設においては、ZEB Ready 相当の水準の環境性能を持つ建物を目標にする。 ⑧ 〈救急災害医療センターでの取り組み〉 建 築：断熱性能の高い複層ガラスの採用や室内日射抑制を図るバルコニー等の設置 空調設備：高効率なコージェネレーションシステムや地中熱利用空調システムの採用 衛生設備：節水型器具及び自動水栓の採用 電気設備：LED 照明器具の採用 人感センサーやスケジュールによるこまめな制御 太陽エネルギーを電気エネルギーに変換し、蓄えた電力で夜間照明を点灯させるソーラーライトの設置	○	P. 17
6	① 学内における不要物品の有効活用を継続して実施するとともに、有効活用した物品を一覧にし、廃棄物の減量を可視化する。 ② 資源化率 100%を維持する。	◎	P. 28
7	① SDGs との関連が分かるような環境報告書を作成し、本学ウェブサイトに掲載する。 ② 各研究科から選出された委員等により構成された SDGs センター会議を開催し、SDGs センターの活動方針を決定するとともに、SDGs に関する活動について情報共有を実施する。 SDGs センターとして学内・学外と連携したシンポジウム等を開催する（共催や協賛等のイベントを含む） SDGs センターHP において SDGs 達成に向けた活動内容を発信するとともに、News Letter を発行する。	◎	P. 29

〔自己評価〕 ◎：目標を達成した ○：一部未達成だが概ね達成した
△：取組が不十分である ×：取組を行わなかった

基本方針 1	環境問題への理解を深める教育を推進し、将来、持続可能な地球環境を保全し、環境問題に取り組んでいくことのできる意欲ある人材を育てていく。
アクションプラン (令和 6～8 年度)	環境問題への理解を深める科目を充実させる。
令和 7 年度 具体的な取組目標	教養教育及び専門教育において、各学部・研究科のカリキュラムや専門性に合わせた環境関連科目を継続して開講し、その充実を図る。 教養教育科目 「E S D と地域の環境」 ・環境問題の解決に向けて、一人ひとりが何をすべきかについて理解する。 ・特に地域における環境問題の改善に向け、自分がどのように貢献できるかを考え、理解する。 学部専門科目 「環境経済学Ⅱ」 ・現代社会が直面している各種環境資源問題について経済学的見地から学ぶ。 ・特に廃棄物や大気汚染問題の現状と本質を理解し、解決策を提示するために必要な基礎力の醸成を目指す。
関連する SDG s	     
自己評価	◎ [評価] ◎：目標（年度計画）を達成した ○：一部未達成だが概ね達成した △：取組が不十分である ×：取組を行わなかった

取り組み状況

（１）令和 7 年度計画の取り組み状況

教養教育及び専門教育科目においては、環境問題及びその周辺の諸課題を認識し、自ら解決方法を考えさせることを目標とした科目を引き続き開講しました。

教育区分	授業科目名（令和7年度開講実績）
教養教育 (27 科目)	ESD と地域の環境、人間の行動・心理と建築、環境と社会・制度・政治・経済、環境科学、動物とヒトの進化多様性、都市と自然、行動生態学、植物とバイオテクノロジー、エネルギーのサイエンス、地球史入門、地域生態学、社会と医学、教養として知っておきたい様々な病気、次世代エネルギーワークショップ、地域社会で活躍する女性、ワークライフバランスとダイバーシティ、平和論、植物の多様性と環境、健康・スポーツ科学、ヘルシーライフ、人と法と医療、SDGs を考える：医療系、SDGs を考える：自然系、SDGs を考える：数理情報系、SDGs を考える：社会科学系、SDGs を考える：人文系、持続可能な社会と私たち
専門教育 (29 科目)	データサイエンス入門、社会医学基礎、社会医学応用、基礎自主研修（環境労働衛生学分野選択）、MD-PhD 前期コース、衛生化学、環境衛生学、公衆衛生学Ⅰ、公衆衛生学Ⅱ、環境経済学Ⅱ、ESD 入門、ESD 概論、環境教育論、保育内容演習（環境）、ESD 演習（海外スタディツアー）、文系のための環境理学入門、環境社会学、環境政策論、社会調査実習1、社会調査実習2（馬渡ゼミ）、ランドスケープ論、ランドスケープ設計法、建築環境心理論、建築環境工学、建築環境計画、グローバルヘルス、小児看護学概論、レギュラトリーサイエンス、ヘルスプロモーション
大学院教育 (19 科目)	予防・社会医学講義Ⅰ、環境労働衛生学（講義・演習・実験実習）、社会医学系基礎、Basic Medical Science 1、Basic Medical Science 2、薬用資源学特論、衛生化学特論、レギュラトリーサイエンス、環境資源経済論、環境資源経済論特殊講義、ESD 研究 A、環境社会学研究 B、ランドスケープ特論、建築環境心理特論、建築設備設計特論、成育保健看護学、理論看護学、助産学概論、宇宙地球環境情報学特論

全学共通の教養教育科目においては、全学部生が履修できるよう、教養教育の環境関連の科目 27 科目を開講し、環境問題への理解と関心を深めるようにしています。

学部専門教育科目において、授業科目「ESD 概論」では、気候変動やごみ問題をはじめとする環境問題が、自らの生活と密接に結びついていることに気づかせ、どうしたら持続可能な地球環境の保全に取り組めるのかを身近な諸課題に結び付けて具体的に検討し、実行しています。

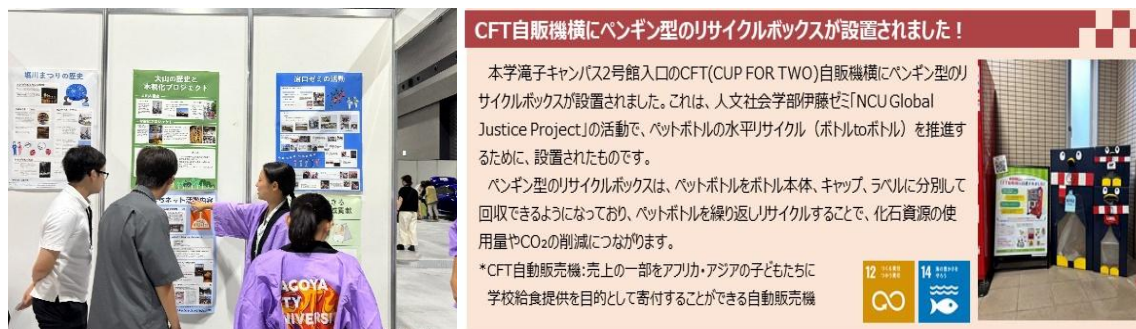
また、大学院教育においても、環境問題について様々な学問的手法による分析、現地調査などによる研究を取り入れた授業科目が提供されています。「建築設備設計特論」では、日本を含む世界のエネルギー消費事情と政策動向を概観し、地球環境と建築とのかわりを知ること、未来を担う一人ひとりがその責務を認知し行動に移すことを目指しており、この授業を通して、建築設計のなかで実現できる省エネ・環境負荷手法について理解でき、建築設計者として取り組める環境配慮策を身につけます。

基本方針2	学生の学内、地域社会、国内外における環境保全活動への自主的な参画・取り組みに対して積極的に支援していく。
アクションプラン (令和 6～8 年度)	① SDGs センターとして学生の SDGs に関する活動を学内外に発信する。 ② 学生が課外活動等の一環として行う自主的な環境に関する取り組みに対して、支援を行う。 ③ 国際交流機関や団体等において環境等に関するグローバルな取り組み等について学ぶ機会を提供する。
令和 7 年度 具体的な取組目標	① SDGs センターとして各種イベントに参加し、取組内容を発信する機会を学生に提供する。SDGs センターHP や SDGs News Letter を通じて学生の取組内容を紹介する。 ② 大学祭でごみ・資源の分別を促すエコステーション（回収所）を設置。各キャンパスの自治会や課外活動団体による開学記念日一斉清掃を実施する。 ③ 国連食糧機関（FAO）の海外事務所に学生最大 3 名を派遣してインターンシップを実施する。
関連する SDGs	1 貧困をなくそう 2 飢餓をゼロに 4 質の高い教育をみんなに 10 人や国の不平等をなくそう 12 つくる責任つかう責任
自己評価	◎ [評価] ◎：目標（年度計画）を達成した ○：一部未達成だが概ね達成した △：取組が不十分である ×：取組を行わなかった

取り組み状況

（1）令和 7 年度計画の取り組み状況

- ① 令和 7 年度は企業や団体が開催する 5 つの SDGs 関連イベントに参加し、学生が研究やゼミでの取り組みを学外に発信する機会を提供しました。SDGs センターHP や 2 か月に 1 度発行している SDGs News Letter を通じて学生の多様な SDGs の取り組みを紹介しました。また、参加した SDGs 関連イベントで SDGs News Letter の配布を行い、学外にも広く発信しました。



学生の活動紹介の様子(経済学部)

SDGs News Letter (Vol. 23 抜粋)

- ② 学友会や各キャンパスの自治会の企画により、4キャンパスにおいて「開学記念日一斉清掃」が実施され、課外活動団体や有志の学生が参加しました。

学生の自治組織である名古屋市立大学学友会は、平成23年に環境に配慮して行動することを宣言しています。

名古屋市立大学学生による環境配慮行動宣言

私たちは、より環境に配慮した行動をするために、以下のことを宣言します。

1. エネルギー使用量削減に努めます
 - ・ 節電・節水を心がけます。
 - ・ 不在時には照明機器のスイッチをオフにします。
 - ・ 空調設備の運転時間及び室温設定を最適にします。
2. 資源の有効利用に努めます
 - ・ 食材は計画的に購入し、廃棄食材を減らします。
 - ・ 不要物は名古屋市の分別基準に従い再資源化に協力します。
 - ・ コピー・印刷用紙を節約します。
 - ・ マイ箸、マイカップを持参し、割り箸や使い捨て容器の使用を減らします。
 - ・ 卒業などで不要になった自転車は、リサイクルします。
3. 環境負荷の少ない移動手段を選択します
 - ・ 建物内での移動は階段を使用し、エレベーターの使用を最小限にします。
 - ・ 外出は徒歩、自転車又は公共交通機関を利用し、自家用車の利用を控えます。
 - ・ やむを得ず自家用車を利用する時は、アイドリングストップなど環境負荷の少ない運転を心がけます。
4. 健康で美しい空間を作ります
 - ・ 学内では禁煙し、学外で喫煙するときは、煙草を吸わない人に配慮し、許可された場所でのみ喫煙します。
 - ・ 身の回りの整理整頓を心がけます。

以上

平成23年4月1日 学友会一同

この宣言に基づき、学友会や各キャンパス自治会が企画・発案し、4キャンパスで開学記念日に学生と教職員が力を合わせて一斉清掃を行いました。キャンパス内共用部分、普段学生が使用する共用スペース(学生会館、体育館、格技場ほか)などの清掃・ごみ拾い・落ち葉拾い等を実施しました。大学祭でごみ・資源の分別を促すエコステーション(回収所)を設置し、分別を促すとともに、意識の啓発を行いました。



各キャンパスにおける清掃の様子

- ③ 国際的な共同研究・支援活動として、世界の食糧生産と分配の改善と生活向上や生物多様性の保全を目的とした国連食糧農業機関（FAO）でのインターンシップに関する協定を締結しています。この協定に基づき、学生を世界各地の FAO オフィスに派遣しています。令和7年度は1名の学生をボリビアオフィスへ派遣し、インターンシップを実施しました。

基本方針3	生物多様性の保全に関連する学術研究等を推進する。
アクションプラン (令和 6～8 年度)	生物多様性の保全に関連する研究や啓発活動を実施するとともに、環境分野における研究支援を行う。
令和7年度 具体的な取組目標	① 生物多様性研究センターを中心に、生物多様性の現状把握や保全に関連する研究を行うとともに、生物多様性に関わる名古屋市等の関連部署や活動団体と協働し、高校生をはじめとする市民に生物多様性の大切さを啓発する活動を行う。 ② 環境分野に係る外部研究資金獲得に向けて関係各所管課室を通じて学内の研究者に公募情報を発信するなど研究支援を行う。 ・一般財団法人藤森科学技術振興財団研究助成 ・公益財団法人八洲環境技術振興財団研究助成 ・公益財団法人三島海雲記念財団自然科学部門研究助成 ・公益財団法人旭硝子財団ブループラネット地球環境特別研究助成 ・公益財団法人住友財団環境研究助成 ・一般社団法人カーボンリサイクルファンド研究助成
関連するSDGs	  
自己評価	◎ [評価] ◎：目標（年度計画）を達成した ○：一部未達成だが概ね達成した △：取組が不十分である ×：取組を行わなかった

取組み状況

（1）令和7年度計画の取組み状況

① 生物多様性研究センターを中心とした生物多様性の保全に関連する研究の実施

理学研究科では、陸の豊かさを守るために（SDGs 目標 15）、名古屋周辺に生息する貝類・昆虫類・カエル類などの標本を収集するとともに、収集した標本について分析した結果を修士論文や卒業論文にまとめて、名古屋市環境局なごや生物多様性センターに情報提供したほか、研究成果を論文にまとめて公表しました。また、海の豊かさを守るために（SDGs 目標 14）、インドネシアやタイの魚類に関する標本収集と DNA 解析も行いました。さらに、理学研究科教員が名古屋市内の生物多様性保全活動に関わ

る市民団体（なごや生物多様性保全活動協議会）と連携協働し、名古屋圏に固有の植物の遺伝的位置づけを解明する共同研究を実施しました。愛知県立瑞陵高等学校の生徒によるトカゲ類に関する研究活動支援も行いました。

② 環境分野に係る外部研究資金獲得に向けて公募情報を発信するなど研究支援の実施

環境分野に係る外部研究資金獲得に向けて公募情報を発信するなど、研究支援を行いました。

<公募情報の発信実績>

- ・一般財団法人藤森科学技術振興財団研究助成
- ・公益財団法人八洲環境技術振興財団研究助成
- ・公益財団法人旭硝子財団ブループラネット地球環境特別研究助成
- ・公益財団法人住友財団環境研究助成
- ・一般社団法人カーボンリサイクルファンド研究助成
- ・公益財団法人旭硝子財団サステナブルな未来への研究助成
- ・一般財団法人日本国土開発未来研究財団学術研究助成
- ・公益財団法人鹿島学術振興財団特定テーマ研究助成
- ・公益財団法人フジシール財団パッケージ・イノベーション特別研究助成
- ・公益財団法人池谷科学技術振興財団研究助成・国際交流等助成
- ・公益社団法人新化学技術推進協会新化学技術研究奨励賞

基本方針4	環境に関連した公開講座、シンポジウム等を地域社会や企業などと連携して開催し、地域社会に貢献する。			
アクションプラン (令和 6～8 年度)	生涯学習等の展開の中で、環境に関連した教育・研究成果を市民へ還元するとともに、環境に関するイベントに参加し、市民の意識の向上に寄与する。			
令和 7 年度 具体的な取組目標	① 本学が主催する公開講座や他機関との連携講座などで、環境に関連したテーマの講座を開催する。 ② 名古屋市等が開催する環境や SDGs に関連したイベントに出展し、本学の取り組みの発信を行う。 ・「環境デーなごや 2025」 (名古屋市主催) ・「愛知万博 20 周年記念事業」への参画 (愛知県・名古屋市主催) ・「SDGs AICHI EXPO 2025」 (愛知県主催)			
関連する SDGs	4 質の高い教育をみんなに 	12 つくる責任 つかう責任 	13 気候変動に具体的な対策を 	15 陸の豊かさも守ろう 
自己評価	◎	〔評価〕 ◎：目標（年度計画）を達成した ○：一部未達成だが概ね達成した △：取組が不十分である ×：取組を行わなかった		

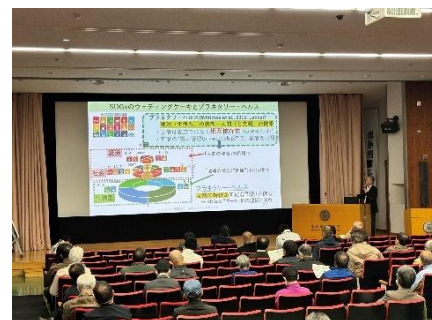
取組み状況

（１） 令和 7 年度計画の取組み状況

① 生涯学習機会の提供等

本学は、「地域に開かれた大学」を目指して、幅広い世代の市民に生涯学習機会を提供しており、環境に関連した研究成果を、以下のように広く市民の方へ還元しています。

本学 SDGs センターは令和 8 年 1 月 22 日に「地球規模の課題にどう向き合うか SDGs とプラネタリーヘルス 一名市大の研究から見える視点」と題したシンポジウムを開催しました。長崎大学熱帯医学・グローバルヘルス研究科プラネタリーヘルス学環の渡辺知保教授をお招きし、プラネタリーヘルスの概念やその重要性について、具体的な事例を交えながらご講演いただきました。



また、その後のパネルディスカッションでは、本学教員を交え、地球規模の課題に対し、分野の垣根を越えた活発な意見交換が行われました

令和8年2月22日には、Human Feedback プロジェクト 2025 として講演会「動物とヒトとの共存 そのために私たちに何が出来るか？」を開催しました。人の医療を動物に還元することをテーマに1995年から続けられている本プロジェクトの取り組みの1つとして東山動物園と共同で開催し、オランウータンや他の類人猿などの子育てを自身の子育てに活かした体験談や、オランウータン飼育の人工哺育の歴史や福祉重視の飼育、今後の国内飼育の課題などについて講演を行いました。

② 環境に関する各種イベントへの参加等

市民とともに名古屋市内の全区で生物調査を行うイベント「なごや生きもの一斉調 2025 〜カエル編〜」（令和7年5月1日〜6月30日）で、理学研究科の教員1名と学生3名が一般調査員として参加しました。

市民・事業者・行政の協働のもと、よりよい環境づくりに向けて具体的な行動を実践する「環境デーなごや」のパートナーシップ事業の一環として、令和7年7月10日に滝子（山の畑）キャンパス周辺の地域美化活動を行いました。

令和7年9月13日に開催された「環境デーなごや」の中央行事では、理学研究科の教員と学生4名がブースを出展し、名古屋市内の河川におけるマイクロプラスチック量を調査した結果をポスターとともに紹介しました。

令和7年10月3日〜4日に愛知国際展示場で開催された愛知県等からなる「SDGs AICHI EXPO 実行委員会」主催の「SDGs AICHI EXPO 2025 〜SDGs 子ども・ユースフェア〜」へのブース出展を行いました。本学のSDGsに関する取り組みの紹介をはじめ、経済学部学生による「祭りを通じた地域参加」の活動紹介やSDGs推進サークル



「サステナカレッジ」による「ごみを減らす大切さ」を考えるワークショップを行いました。

令和7年11月8日に開催された「第10回なごや生物多様性センターまつり」では、理学研究科附属生物多様性研究センターが、「なごやの淡水産貝類の多様性」をテーマとしたブースを出展し、名古屋の陸域に生息する多様な貝類について、ポスターや多数の殻標本とともに紹介しました。

名古屋市スポーツ市民局の消費者啓発事業に、人文社会学部の学生がゼミ活動として連携協力し、その一環で令和7年11月15日に開催された名古屋市消費生活フェア「なごやエシカルフェア☆2025」にブース出展を行いました。レンゴー株式会社豊橋工場との連携によって作成した段ボール製のリサイクルボックスの展示と NPO 法人中部リサイクル運動市民の会と連携した古着リサイクルのワークショップを行いました。

上記以外にも、SDGs に関する各種イベントにパネルを展示し、環境を含めた本学の SDGs に関連する取り組みの紹介を行いました。

- ア 令和7年4月26日に吹上ホールで開催された「なごやみらいフェスティバル2025」（主催：一般社団法人 SDGs ヒーローズ）でのブース出展
- イ 令和7年8月20日に中日ビルで開催された「県内大学魅力化のための PBL 導入支援フォーラム」（主催：中日新聞社）での学生の取り組み発表
- ウ 令和7年9月13日にキャナルパークささしまで開催された「De La MIRAI NAGOYA～未来を創ろう 愛・地球博20周年記念行事～」(主催：名古屋市)でのブース出展
- エ 令和7年11月22日に名古屋東京海上日動ビルディングで開催された「SDGs フェスティバル in 名古屋丸の内」(主催：中部圏 SDGs 広域プラットフォーム、共催：愛知県／岐阜県／三重県／名古屋市)のオープニングイベントのブース出展



県内大学魅力化のための
PBL 導入支援フォーラムの様子



De La MIRAI NAGOYA の様子

基本方針5

環境負荷低減のために、環境マネジメントシステムに沿って行動計画（アクションプラン）を策定し、キャンパス内で省エネルギー・省資源に積極的に取り組み、実践していく。

アクションプラン (令和 6～8 年度)

- ① エネルギー使用量の削減に努める。水道使用量の削減に努める。
- ② 温室効果ガス排出量の削減に努める。
- ③ 自動車燃料の使用量の削減に努める。
- ④ 用紙使用量の削減に努める。
- ⑤ 一般廃棄物（感染性一般廃棄物を除く）の削減に努める。
- ⑥ 責任ある消費のもと、病院において排出する医療廃棄物（感染性一般廃棄物、感染性産業廃棄物及び非感染性産業廃棄物）について、適正な回収・処理を行い、資源の持続可能な管理に努めるとともに、感染性廃棄物による汚染を防止し環境負荷を軽減し、合わせて感染の防止に努める。
- ⑦ 〈施設再編整備での取り組み〉新棟建設においては、断熱性能の向上や高効率機器の導入等に努めることで、環境に配慮した建物とする。
- ⑧ 〈救急災害棟での取り組み〉救急災害医療センター建設にあたり、省エネ型機器やシステム等の採用に努めるなど、エネルギー消費の低減に努める。

令和 7 年度 具体的な取組目標

- ① エネルギーの使用に係る原単位を年平均 1%以上低減する。水道使用量について、前アクションプラン期間（令和 3～5 年度）の平均使用量以下となるよう節減に努める。
- ② 名古屋市「市民の健康と安全を確保する環境の保全に関する条例」に基づく地球温暖化対策計画書に掲げる温室効果ガス排出量の抑制に係る目標の達成に取り組む。
- ③ 年間の自動車燃料使用量について、車両一台あたりの使用量が令和 5 年度の一台あたりの使用量以下となるよう削減に努める。
- ④ 両面印刷や集約印刷、不要となった用紙の裏面利用、ペーパーレス会議の拡充等により、職員一人当あたり、年間の用紙使用量が前アクションプラン期間（令和 3～5 年度）の平均使用量以下となるよう削減に努める。
- ⑤ 職員一人あたり、年間の一般廃棄物の排出量について、前アクションプラン期間（令和 3～5 年度）の平均排出量以下となるよう削減に努める。
- ⑥ 環境省が作成した「廃棄物処理法に基づく感染性廃棄物処理マニュアル」を基に医療廃棄物の適正な処理を行う。医療

	廃棄物の分別方法について院内にて研修や掲示を通して周知を行う。 ⑦〈施設再編整備での取り組み〉新棟建設においては、ZEB Ready※相当の水準の環境性能を持つ建物を目指す。 ※ZEB(ゼブ)とは「Net Zero Energy Building (ネット・ゼロ・エネルギー・ビル)」の略称であり、快適な室内環境を実現しながら、建物で消費する年間の一次エネルギーの収支をゼロにすることを目指した建物のこと。ZEBには4段階あり、その中でZEB Readyとは再生可能エネルギーを除き、基準一次エネルギー消費量から50%以上の一次エネルギー消費量削減に適合した建築物を指す。 ⑧〈救急災害医療センターでの取り組み〉 建 築：断熱性能の高い複層ガラスの採用や室内日射抑制を図るバルコニー等の設置 空調設備：高効率なコージェネレーションシステムや地中熱利用空調システムの採用 衛生設備：節水型器具及び自動水栓の採用 電気設備：LED照明器具の採用 人感センサーやスケジュールによるこまめな制御 太陽エネルギーを電気エネルギーに変換し、蓄えた電力で夜間照明を点灯させるソーラーライトの設置
関連するSDGs	7 エネルギーをみんなに そしてクリーンに 11 住み続けられる まちづくりを 12 つくる責任 つかう責任
自己評価	○ [評価] ◎：目標（年度計画）を達成した ○：一部未達成だが概ね達成した △：取組が不十分である ×：取組を行わなかった

取り組み状況

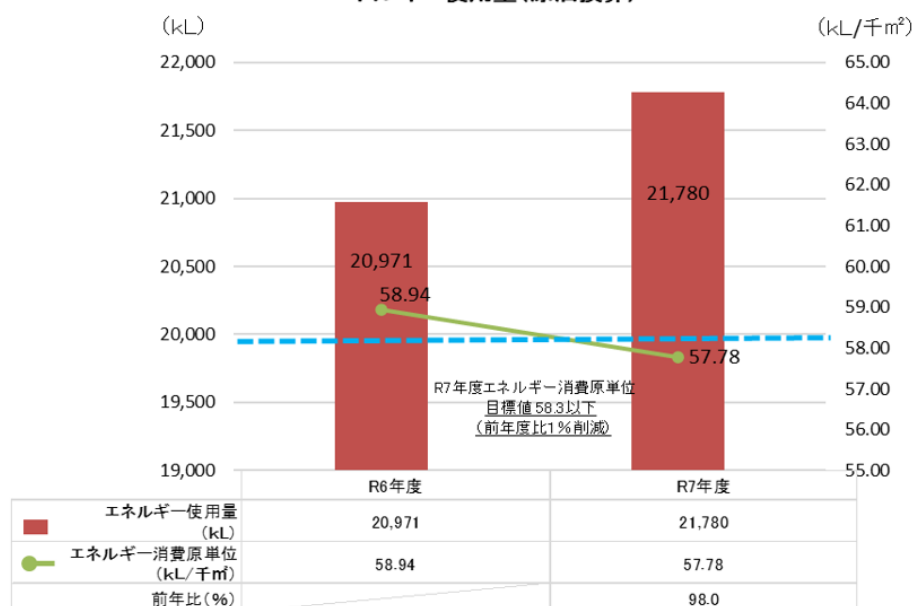
（１）令和７年度計画の取り組み状況

省エネ法（エネルギーの使用の合理化等に関する法律）に基づき、桜山（川澄）キャンパス、東部医療センター、西部医療センターは第一種エネルギー管理指定工場等に指定されており、省エネルギー推進委員会を置いてエネルギー使用量の削減に取り組んでいます。

①－１ エネルギー使用量

本学で令和７年度に使用した電気、ガス等のエネルギーは原油換算で21,780kLとなり、エネルギー消費原単位（施設面積あたりのエネルギー使用量）は令和６年度と比較して2.0%減少しました。エネルギーの使用に係る原単位（エネルギー消費原単位）を年平均1%以上低減することを取組目標としており、令和７年度は達成することができました。今後もより一層の省エネ活動に取り組んでまいります。

エネルギー使用量(原油換算)



電気使用量

千 kWh

	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度
桜山キャンパス(病院除く)	10,216	10,872	10,818	10,675	10,857
市大病院	17,732	18,793	19,595	20,170	20,374
田辺通キャンパス	3,596	3,518	3,450	3,493	3,381
滝子キャンパス	2,172	2,288	2,444	2,479	2,507
北千種キャンパス	951	1,026	975	1,052	1,010
葵キャンパス			24	28	109
東部医療センター	12,652	11,881	11,628	11,896	10,549
西部医療センター	10,659	10,736	10,605	9,932	10,047
みどり市民病院			3,168	3,530	3,583
みらい光生病院			1,034	1,083	982
リハビリテーション病院					954
総使用量	57,978	59,114	63,741	64,338	64,353

ガス使用量

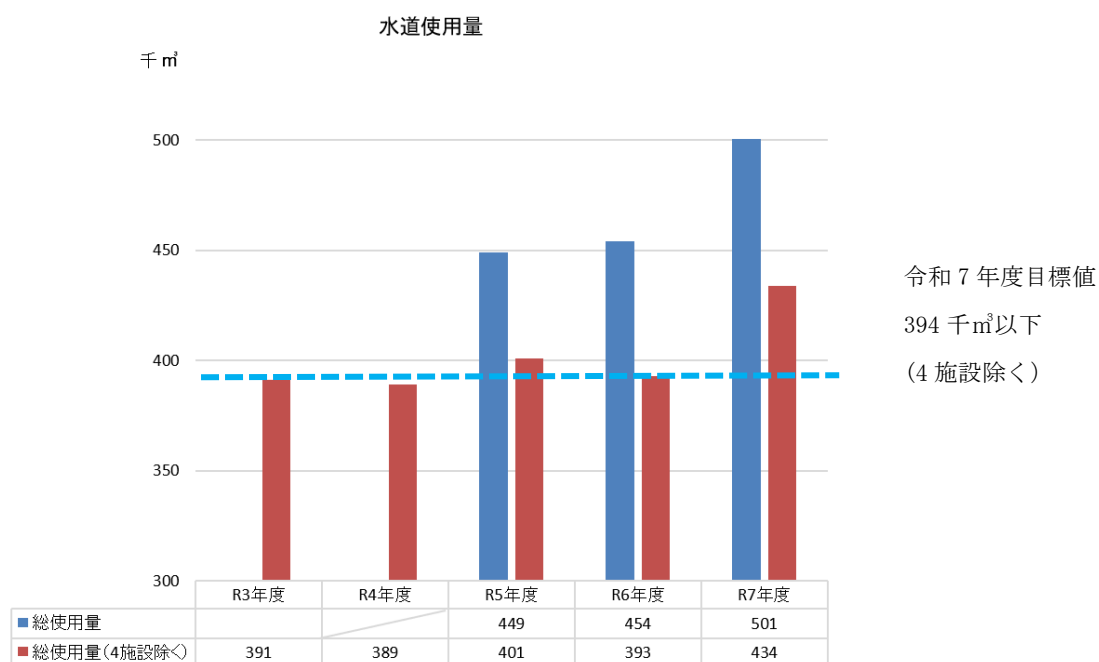
千m³

	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度
桜山キャンパス(病院除く)	882	780	709	691	758
市大病院	2,649	1,925	1,889	1,903	2,012
田辺通キャンパス	353	322	335	363	338
滝子キャンパス	109	127	125	131	139
北千種キャンパス	34	42	35	46	45
葵キャンパス			3	3	13
東部医療センター	305	336	320	352	365
西部医療センター	14	14	13	15	14
みどり市民病院			197	186	181
みらい光生病院			340	344	329
リハビリテーション病院					115
総使用量	4,346	3,546	3,966	4,034	4,309

令和5年度より葵キャンパス、みどり市民病院、みらい光生病院、令和7年よりリハビリテーション病院が加わりました。

①－２ 水道使用量

本学では、水道使用量を前アクションプラン期間（令和３年度～令和５年度）の平均使用量以下となるよう節減に努めることを取組目標としています。前アクションプラン期間に含まれない４施設（葵キャンパス、みどり市民病院、みらい光生病院、リハビリテーション病院）を除いた使用量を比較すると、目標値に対し約 10.4% 上回っており（目標値 394 千 m^3 、令和 7 年度実績 434 千 m^3 ）、目標を達成することができませんでした。夏場の高い気温が続いており、空調運転に多くの冷却水が必要となることや、キャンパス再編整備の工事で使用する水の量が増加したことが一因です。



水道使用量

	千 m^3				
	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度
桜山キャンパス(病院除く)	72	66	66	57	67
市大病院	181	178	190	185	196
田辺通キャンパス	17	17	16	16	17
滝子キャンパス	12	14	15	17	26
北千種キャンパス	3	4	3	4	4
葵キャンパス			0.1	0.1	0.5
東部医療センター	57	56	57	61	66
西部医療センター	49	54	54	53	58
みどり市民病院			24	32	32
みらい光生病院			24	29	22
リハビリテーション病院					12
総使用量	391	389	449	454	501

令和 5 年度より葵キャンパス、みどり市民病院、みらい光生病院、令和 7 年よりリハビリテーション病院が加わりました。

② 温室効果ガス排出量

名古屋市の「市民の健康と安全を確保する環境の保全に関する条例」（環境保全条例）では、エネルギー使用量が 800kL 以上の事業者に対し、地球温暖化対策計画書及び地球温暖化対策実施状況書を提出することを求めています。当計画書では、温室効果ガス排出量について目標削減率を掲げ、実施状況書によりその達成状況を報告することとなっています。

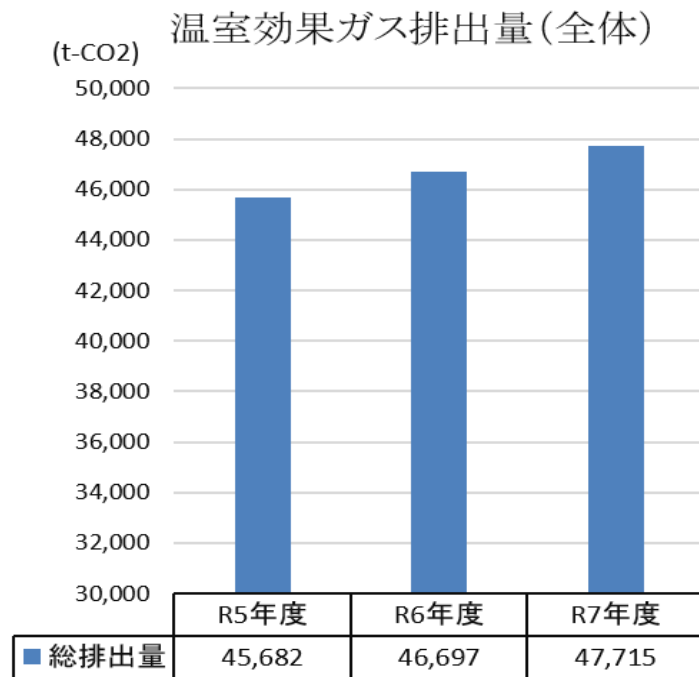
本学では、桜山キャンパス、田辺通キャンパス、東部医療センター、西部医療センター及びみどり市民病院が対象施設であり、令和 5 年度を基準年度とし、令和 6 年度～令和 8 年度を期間とする計画に取り組んでいます。

令和 5 年度の排出量と比較して、令和 7 年度は桜山キャンパス、田辺通キャンパス、東部医療センターで削減できましたが、西部医療センター、みどり市民病院では上回りました。西部医療センターでは、空調の除湿制御のために使用する冷水・温水の使用量が増加したこと、みどり市民病院では、電気の調達先の変更に伴い非化石証書の使用割合が少なくなり、CO2 排出量が増加したことが主な原因です。目標達成に向けてより一層の省エネ活動に取り組み、引き続き温室効果ガス排出量の削減に努めてまいります。

地球温暖化対策計画書に掲げる温室効果ガス排出量の削減目標及び実績 (t-CO2)

	令和5年度排出量 (基準年度)		基準年度に 対する削減目標 (令和8年度 時点)	令和6年度 排出量	令和7年度 排出量	令和7年度 削減率 (※対令和5年 度実績)
桜山キャンパス	総排出量	24,627	0.2%	24,882	25,450	3.3%減少
	原単位あたり	0.1687		0.1705	0.1632	
田辺通キャンパス	総排出量	2,208	9.7%	2,975	2,849	1.3%減少
	原単位あたり	0.1140		0.1175	0.1125	
東部医療センター	総排出量	5,792	3.0%	6,278	5,684	1.9%減少
	原単位あたり	0.1089		0.1180	0.1068	
西部医療センター	総排出量	6,844	3.0%	6,755	7,149	4.5%増加
	原単位あたり	0.1607		0.1586	0.1679	
みどり市民病院	総排出量	1,796	3.0%	1,927	2,018	13.1%増加

現計画期間(令和 6 年度～令和 8 年度)は前計画期間(令和 3 年度～令和 5 年度)と使用係数が異なるため、基準年度である令和 5 年度との比較としました。

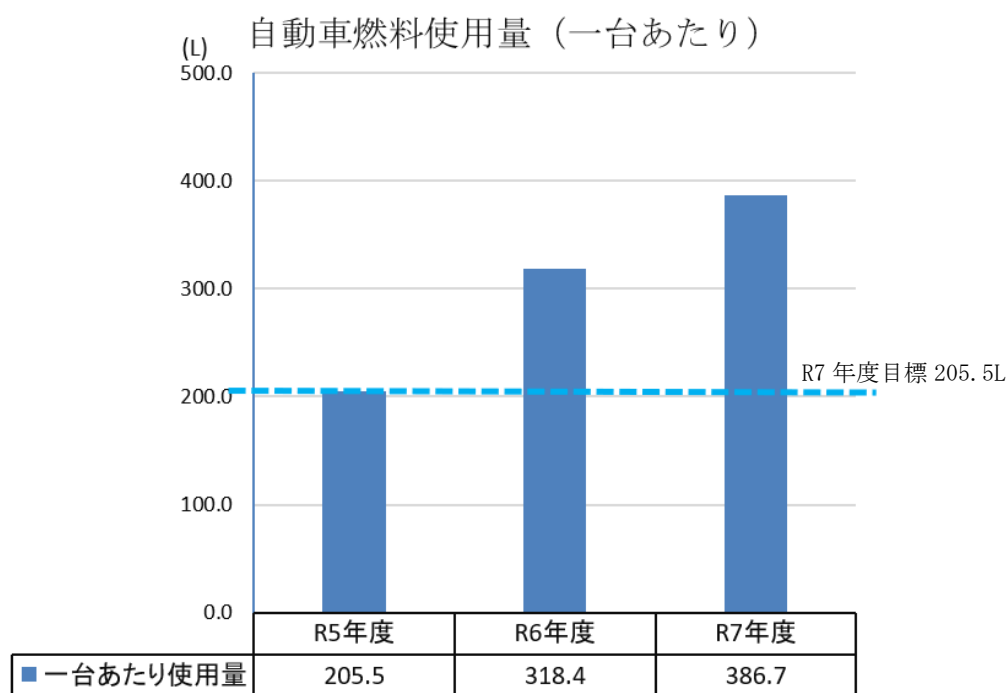


温室効果ガス排出量(内訳)		(t-CO2)	
	R5年度	R6年度	R7年度
桜山キャンパス	24,627	24,882	25,450
田辺通キャンパス	2,886	2,975	2,849
滝子キャンパス	1,787	1,822	1,857
北千種キャンパス	679	752	724
葵キャンパス	17	20	79
東部医療センター	5,792	6,278	5,684
西部医療センター	6,844	6,755	7,149
みどり市民病院	1,796	1,927	2,018
みらい光生病院	1,254	1,286	1,204
リハビリテーション病院			701
計	45,682	46,697	47,715

令和5年度より葵キャンパス、みどり市民病院、みらい光生病院、令和7年度よりリハビリテーション病院が加わりました。

③ 自動車燃料使用量

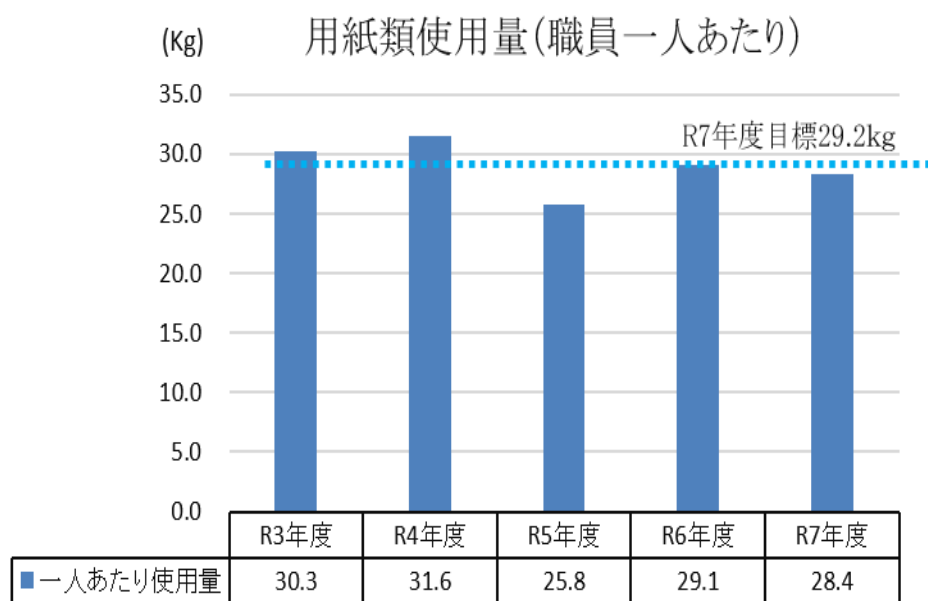
本学では、自動車を 12 台所有しています。これらの自動車の利用に伴い使用した燃料（軽油についてはガソリン給油量に換算）は、令和 5 年度の車両一台あたり使用量 205.5L 以下となるよう削減に努めるようにしています。これに対し、令和 7 年度の一
台あたりの使用量は、ドクターカーの 24 時間運用開始など業務の拡大に伴い稼働率が
上がったことにより 386.7L となり、目標を達成することができませんでした。今後
も、ウェブ会議システムを活用した遠隔会議を推進する等、より一層自動車燃料使用
量の削減に取り組んでまいります。



④ 用紙類使用量

用紙類の総使用量については、前アクションプラン期間（令和 3 年度～令和 5 年度）の平均使用量以下（職員一人あたり 29.2 kg 以下）となるよう削減に努めています。これに対し、令和 7 年度の使用量は職員一人あたり 28.4 kg となり、目標を達成することができました。

継続して使用量を削減する努力を積み重ねてきていることから、今後も、電子決裁システムの利用、ペーパーレス会議システムを活用した会議の実施、両面印刷及び裏紙利用の徹底など、日常的な削減努力を続けていきたいと考えています。



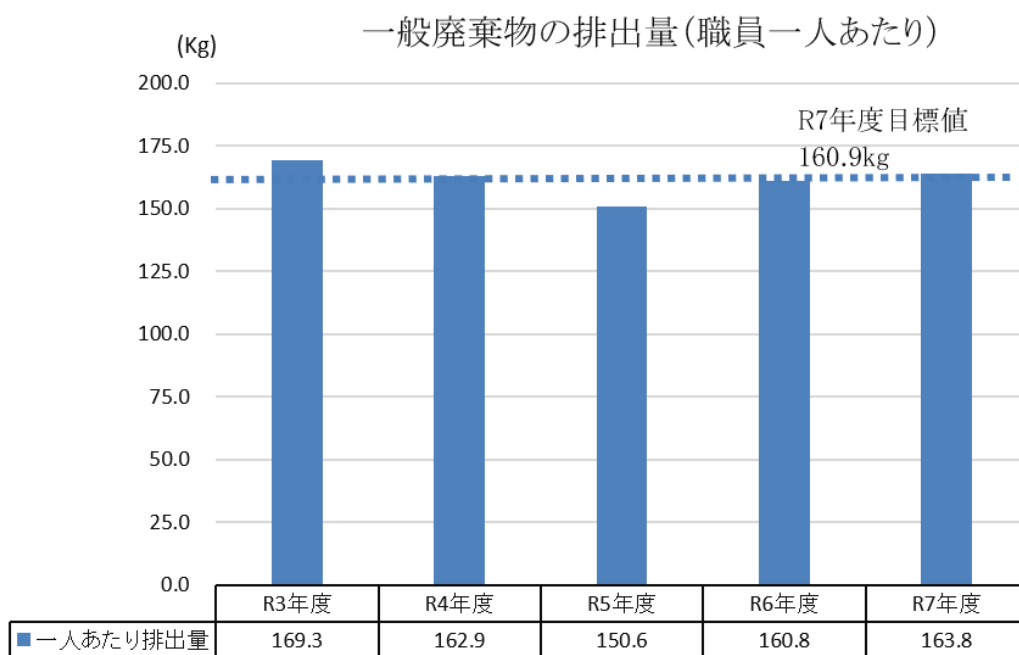
用紙使用量(施設ごと) (t)

	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度
桜山キャンパス(病院除く)	18.7	21.2	22.1	15.7	18.3
市大病院	49.9	53.5	51.5	55.0	57.5
田辺通キャンパス	1.2	0.7	0.1	0.1	1.3
滝子キャンパス	7.8	9.6	8.8	9.1	10.4
北千種キャンパス	1.8	1.4	1.5	1.2	1.2
葵キャンパス			0	0.5	0.1
東部医療センター	21.6	22.1	20.8	21.3	22.9
西部医療センター	30.7	34.5	37.7	38.8	36.3
みどり市民病院			8.0	9.6	10.1
みらい光生病院			4.0	5.1	4.3
リハビリテーション病院					2.9
総使用量	131.7	143.1	154.5	156.4	165.2

令和 5 年度より葵キャンパス、みどり市民病院、みらい光生病院、令和 7 年度よりリハビリテーション病院が加わりました。

⑤ 一般廃棄物排出量

感染性一般廃棄物を除く一般廃棄物の排出量については、前アクションプラン期間（令和3年度～令和5年度）の平均排出量以下（職員一人あたり160.9kg以下）となるよう削減に努めています。これに対し、令和7年度の排出量は職員一人あたり163.8kgとなり、目標を達成することができませんでした。今後も、不要物品の有効活用や、雑がみを一般廃棄物にせず分別してリサイクルする等、一般廃棄物の排出量削減に努めてまいります。



一般廃棄物の排出量（施設ごと） (t)					
	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度
桜山キャンパス(病院除く)	65.0	60.2	62.5	46.9	56.9
市大病院	199.4	204.7	209.9	215.7	223.5
田辺通キャンパス	19.9	12.1	17.1	18.9	20.3
滝子キャンパス	18.5	21.2	24.2	22.1	23.4
北千種キャンパス	13.1	18.1	18.5	20.2	23.6
葵キャンパス				0.3	0.3
東部医療センター	256.5	259.8	264.8	187.4	200.6
西部医療センター	164.5	162.3	162.8	169.0	181.3
みどり市民病院			66.4	83.8	117.8
みらい光生病院			75.3	100.2	101.6
リハビリテーション病院					14.9
総排出量	736.9	738.4	901.5	864.5	964.2

令和5年度より葵キャンパス、みどり市民病院、みらい光生病院、令和7年度よりリハビリテーション病院が加わりました。

⑥ 医療廃棄物の処理

附属病院では、取組目標に則して、医療活動で排出される医療廃棄物（感染性産業廃棄物、非感染性産業廃棄物）について、分別方法を院内にて研修や掲示を通して周知するとともに、法令順守のもと廃棄物処理に係る規程を基に適正に回収・処理を行っています。

市大病院は、平成 20 年 2 月に認定され、平成 25 年 8 月に最新バージョンでの全国第 1 号認定（機能種別一般病院 2）を受けた病院機能評価において、廃棄物処理は適切であると評価されています。令和 7 年度は 1,327.0t の医療廃棄物を業者委託により回収し、適正に処理を行いました。

東部医療センターは、平成 16 年 9 月に認定され、令和 6 年 9 月に受けた病院機能評価（機能種別一般病院 2）において、廃棄物処理は適切であると評価されています。令和 7 年度は 818.6t の医療廃棄物を業者委託により回収し、適正に処理を行いました。

西部医療センターは、平成 25 年 1 月に認定され、令和 5 年 3 月に受けた病院機能評価（機能種別一般病院 2）において、廃棄物処理は適切であると評価されています。令和 7 年度は 669.0t の医療廃棄物を業者委託により回収し、適正に処理を行いました。

また、みどり市民病院では 55.7t、みらい光生病院では 59.0t、リハビリテーション病院では 47.4t の医療廃棄物を業者委託により回収し、適正に処理を行いました。

⑦ 省エネルギー対策の推進

本学では、令和 9 年度の供用開始を目標に、滝子キャンパスと田辺通キャンパスの再編整備を進めています。ZEB Ready 相当の水準の環境性能を持つ建物为目标に、環境に配慮した建築物として BEI（基準一次エネルギー消費量）が 0.5 以下となるよう設計を進めるとともに、BELS（建築物省エネルギー性能表示制度）認証も取得しています。



滝子キャンパス 外観イメージ



田辺通キャンパス 外観イメージ

⑧ 省エネルギー対策の推進 ※救急災害医療センターでの取り組み

救急災害医療センターでは、省エネ型機器やシステム等の採用に務めるなど、エネルギー消費の低減に努めています。

- ・断熱性能の高い複層ガラスの採用
- ・室内日射抑制を図るバルコニー等の設置
- ・高効率なコージェネレーションシステムの採用
- ・地中熱利用空調システムの採用
- ・節水型器具及び自動水栓の採用
- ・LED 照明器具を採用し、人感センサーやスケジュールによるこまめな制御
- ・太陽エネルギーを電気エネルギーに変換し、蓄えた電力で夜間照明を点灯させるソーラーライトの設置

(2) その他の取り組み状況

① 地球温暖化対策実施状況の報告

名古屋市の「市民の健康と安全を確保する環境の保全に関する条例」（環境保全条例）に基づき、温室効果ガスの排出量等を、地球温暖化対策実施状況書により名古屋市に報告しています。また、本学ウェブサイトにおいても、実施状況報告書・計画書を公開しています。

(<https://www.nagoya-cu.ac.jp/about/environment/ondanka/index.html>)

② 省エネ法定定期報告に基づく事業者クラス分け評価

本学は、エネルギーの使用の合理化等に関する法律（省エネ法）に基づき、経済産業省中部経済産業局に対し、エネルギー使用状況等に関する定期報告を行っています。

事業者クラス分け評価制度は、定期報告を評価し、提出する全ての事業者を S・A・B・C の 4 段階へクラス分けするものですが、本学は令和 7 年度 A クラス（省エネの更なる努力が期待される事業者）見込みとなっています。今後も一層の省エネ活動を進めていきたいと思っています。

(https://www.enecho.meti.go.jp/category/saving_and_new/saving/enterprise/overview/institution/)

基本方針6	物品調達に際してグリーン購入の推進を図るとともに、設備・機材等の利用にあたって廃棄物の減量化とリサイクル資源の活用を推進していく。	
アクションプラン (令和 6～8 年度)	① 再利用の促進を学内に広く周知し、不要物品の有効活用を推進し、廃棄物の減量化を図る。 ② 古紙、びん、缶、ペットボトルの資源化率 100%を維持しつつ、環境に配慮した取り組み周知を図る。	
令和 7 年度 具体的な取組目標	① 学内における不要物品の有効活用を継続して実施するとともに、有効活用した物品を一覧にし、廃棄物の減量を可視化する。 ② 資源化率 100%を維持する。	
関連する SDG s		
自己評価	◎	[評価] ◎：目標（年度計画）を達成した ○：一部未達成だが概ね達成した △：取組が不十分である ×：取組を行わなかった

取り組み状況

（１）令和 7 年度計画の取り組み状況

① 不要物品等の有効活用

各所属にて不要物品が生じた場合は、学内へ周知して再利用希望者を募集しており、再利用できる不要物品の有効活用を継続して実施しています。また、有効活用した物品を一覧にして可視化することで、廃棄物の更なる減量に努めています。

② 古紙、びん、缶、ペットボトルの資源化率

資源化率 100%を継続することができました。

（２）その他の取り組み状況

本学では、名古屋市グリーン購入推進指針及び名古屋市グリーン購入ガイドラインに基づき、環境に配慮した製品の選定に努めています。

基本方針7

環境マネジメントシステムを絶えず見直すとともに、環境保全活動の成果（環境報告書）を広く社会に公表していく。

アクションプラン (令和 6～8 年度)

- ① 環境報告書を作成し、広く社会に公表・発信する。
- ② SDGs センターにおいて、学内・学外と連携し、本学の有する教育、研究成果等の資源を活用し、SDGs の達成に向けた活動を推進する。

令和 7 年度 具体的な取組目標

- ① SDGs との関連が分かるような環境報告書を作成し、本学ウェブサイトに掲載する。
- ② 各研究科から選出された委員等により構成された SDGs センター会議を開催し、SDGs センターの活動方針を決定するとともに、SDGs に関する活動について情報共有を実施する。

SDGs センターとして学内・学外と連携したシンポジウム等を開催する(共催や協賛等のイベントを含む)

SDGs センターHP において SDGs 達成に向けた活動内容を発信するとともに、News Letter を発行する。

自己評価

◎

[評価] ◎：目標（年度計画）を達成した
○：一部未達成だが概ね達成した
△：取組が不十分である
×：取組を行わなかった

取組み状況

(1) 令和 7 年度計画の取組み状況

① 環境報告書の発信

環境報告書 2024 [令和 6 年度版] を作成し、本学ホームページにおいて公表しました。

②-1 SDGs センター会議の開催

各研究科から選出された委員等により構成された SDGs センター会議を開催し、SDGs センターの活動方針を決定するとともに、SDGs に関する活動の情報共有を実施しました。



②-2 シンポジウム等の開催

SDGs センターでは、学内・学外と連携したシンポジウム等を開催し、SDGs に関する取り組みや研究成果を紹介しました。

- ・令和7年11月2日 NCU サステナビリティ・プレゼンアワード2025～若者が考える持続可能な社会～
- ・令和8年1月22日 SDGs センターシンポジウム「地球規模の課題にどう向き合うか SDGs とプラネタリーヘルス ― 名古屋市大の研究から見える視点」
- ・令和8年2月22日 Human Feedback プロジェクト2026「動物とヒトとの共存 そのために私たちに何ができるか？」



NCU サステナビリティ・プレゼンアワード2025の様子

②-3 SDGs 活動の発信

本学における研究、教育、その他取り組みについて、「SDGs 活動レポート」としてSDGs センターWEB サイトに公開しました。SDGs17 ゴールごとに、本学の取り組みを整理しています。

(<https://www.nagoya-cu.ac.jp/sdgscenter/sdgsactions/>)

また、SDGs News Letter を発行し、SDGs 関連イベントで配布するなど本学の多様なSDGs の取り組みを広く発信しました。



SDGs News Letter Vol.25

5. アクションプラン以外の取り組み状況

(1) 行政機関の環境政策の形成等への関わり

名古屋市審議会等委員として、各研究科の教員が選出され、名古屋市における環境保全に関する施策に関し、重要な提言等を行うなど、行政機関の環境政策の形成等に積極的に貢献しました。

令和7年度 審議会等委員就任状況一覧（環境配慮に関連するもの）

教員名	審議会等名称
伊藤 由起（医学研究科准教授）	名古屋市環境審議会
曾我 幸代（人間文化研究科准教授）	名古屋市環境審議会
針貝 綾（芸術工学研究科教授）	名古屋市環境影響評価審査会

(2) エコスタイル運動の取り組み

エコスタイル運動については、年間を通じて実施しています。気候に合わせて柔軟に服装を選択することで、教職員一人ひとりが省エネや気候変動の適応策を自分事として捉え、カーボンニュートラル実現に向けた機運醸成を図ります。

(3) 大学施設・地域美化活動事業

職員によるキャンパス周辺のボランティア清掃活動を毎月25日の昼休憩中または始業前に実施しました。区内各公所との連携社会貢献活動である瑞穂区内一斉ボランティア清掃にも継続して参加し、地域の環境美化に努めました。



(4) 名市大古本募金による古本の回収

「名市大古本募金」とは、在校生、卒業生、保護者、教職員または一般の方々から提供された書籍類（CD・DVD等を含む）の買い取り金額が本学への寄附金となる仕組みです。書籍類の再利用につなげることで、環境保全に貢献しています。

(5) 環境配慮に関する職員研修

新規採用者研修において、本学の環境に対する取り組みや環境マネジメントシステムを紹介し、環境配慮への意識啓発を行いました。

(6) 附属病院の取り組み

附属病院では、高度先進医療を提供し療養環境を向上させるための最新の医療設備の整備、手術件数や救急受入件数の増加により、年々、環境に負荷をかける度合いが大きくなっていることに対し、各々環境負荷の軽減に努めています。

市大病院では、平成30年度より、空調・熱源機器の設定温度や運転時間等を見直す運用改善を一層推進しています。また、改修工事や設備更新などにより、LED照明器具に切り替えて運用しています。

東部医療センターでは、平成27年3月に救急・外来棟、令和2年1月に入院・診療棟が開棟しました。救急・外来棟の一部と、入院・診療棟の全域で、LED照明器具に切り替えて運用しており、今後も改修工事や設備更新などにより可能な箇所について、LED照明器具への切り替えを進めています。

西部医療センターでは、中央管理の空調システムにより、それぞれのエリアの使用状況に応じた運転時間を設定しています。また、間接蒸気発生器の運転設定の見直し、手動蒸気元弁の閉止作業の実施等により適切な空調加湿管理し、無駄の少ない省エネルギー対策をしています。令和2年度より、井水ろ過装置を設置し、災害拠点病

院として更に備えを強化しただけでなく、日常的に従来から利用している雨水と併用して省エネルギー対策として効果を上げています。また、令和5年度に院内の照明器具をLED照明に切り替え、消費電力の削減に伴う温室効果ガスの排出削減を図りました。

みどり市民病院では、空調に関しては、空調・熱源機器の設定温度や運転時間等を見直す運用改善を行っております。また、改修工事や設備更新などにより可能な箇所について、LED照明器具に切り替えて運用しています。

みらい光生病院では、名古屋市厚生院の建物の一部を借り受けているため、空調に関しては、名古屋市厚生院の中央管理の空調システムにより一括で管理されています。

リハビリテーション病院は、名古屋市総合リハビリテーションセンターの建物の一部を借り受けているため、空調に関しては、名古屋市総合リハビリテーションセンターの中央管理の空調システムにより一括で管理されています。

附属病院共通の取組としては、中央管理による空調システムや人感センサー付きの照明・洗面台等の省エネルギー対策を講じた設備を導入し、より環境負荷を削減するよう努めています。また、エスカレーターの運転時間の短縮、エレベーターの効率運用の推進、廊下やエントランス、外灯等、診療に直接影響の無い場所での照明点灯を制限する、患者さんや来院者に影響のない範囲で、空調・熱源機器の設定温度や運転時間等を見直す等の、省エネルギー対策を継続的に実施しています。

一方で、設備面から取りうる対策には限度があるため、病院に勤める職員それぞれが、環境負荷の削減を意識して日常の業務活動に取り組むことを目指して、日常的な意識啓発も進めています。

また、手術件数や救急受入件数の増加など医療活動の拡大に伴い、感染性廃棄物をはじめとした医療廃棄物は年々増加し、削減が困難な状況にあります。医療廃棄物の適正な回収・処理を行うとともに、再資源化の推進など廃棄量の増加抑制についても取り組んでいます。

このように附属病院では、今後も引き続き省エネルギー対策や適正な廃棄物処理を推進し、環境負荷を軽減していくように努めてまいります。

SDGs に対して、大学がいかに取り組み、社会に影響を与えているかを可視化したランキング「THE サステナビリティインパクトレーティング 2026 (※)」で、本学は総合ランキングで世界 401-600 位、国内同率 8 位（7 年連続公立大学 1 位）にランクインしました。

また、SDG 別のランキングでは、SDG3「すべての人に健康と福祉を」において世界同率 67 位、国内 2 位にランクインするなど、本学の取組みが高く評価されました。

今後も本学では、世界をリードする大学を目指し、SDGs のさらなる取組みを進めることにより、持続可能な社会の構築に向けた優れた人材を輩出するとともに、教育・研究成果を社会に広く還元してまいります。

(※)イギリスの高等教育専門誌「Times Higher Education(THE)」が発表したランキング

(令和 8 年 6 月 24 日発表)

○本学の総合順位とエントリーした SDG 別順位

(注) 順位横の「=」表記は、同率順位であることを示しています。

	世界	日本
総合ランキング	401-600	=8
SDG3 すべての人に健康と福祉を	=67	2
SDG5 ジェンダー平等を実現しよう	801-1,000	=5
SDG8 働きがいも経済成長も	401-600	=5
SDG9 産業と技術革新の基盤をつくろう	301-400	=14
SDG11 住み続けられるまちづくりを	401-600	=11
SDG12 つくる責任つかう責任	600+	17
SDG17 パートナリーシップで目標を達成しよう	801-1,000	=17



【参考資料】 公立大学法人名古屋市立大学の概要

名古屋市立大学は、7 学部、8 研究科、附属病院、図書館等を持つ公立大学法人です。総合大学として、様々な分野における教育・研究活動を展開し、社会貢献活動を推進するとともに、附属病院において高度急性期から回復期・慢性期まで患者様の状態に応じた医療を提供しています。

➤ **法人名** 公立大学法人名古屋市立大学

➤ **設 立** 昭和 25 年 4 月 1 日（平成 18 年 4 月 1 日公立大学法人化）

➤ **所在地及び敷地面積** (令和 7 年 4 月 1 日現在)

キャンパス等	住所	敷地面積
桜山キャンパス ※	名古屋市瑞穂区瑞穂町字川澄 1	65,938.98 m ²
田辺通キャンパス	名古屋市瑞穂区田辺通 3-1	46,571.96 m ²
滝子キャンパス	名古屋市瑞穂区瑞穂町字山の畑 1	63,587.59 m ²
北千種キャンパス	名古屋市千種区北千種 2-1-10	25,967.63 m ²
葵キャンパス	名古屋市東区葵 1-4-7	9765.36 m ²
東部医療センター	名古屋市千種区若水一丁目 2-23	27,494.09 m ²
西部医療センター	名古屋市北区平手町一丁目 1-1	27,652.24 m ²
みどり市民病院	名古屋市緑区潮見が丘 1-77	8,494.72 m ²
みらい光生病院	名古屋市名東区勢子坊二丁目 1501	9,650.32 m ²
リハビリテーション病院	名古屋市瑞穂区弥富町字蜜柑山 1-2	6542.24 m ²
その他	留学生宿舎など	2,596.06 m ²

※市大病院は「桜山キャンパス」にあります。

➤ **沿 革**

名古屋市立大学は、明治 17 年（1884 年）に設置された名古屋薬学校にその端を発しています。昭和 25 年（1950 年）4 月 1 日、名古屋女子医科大学と名古屋薬科大学を統合して、医学部（旧制）と薬学部（新制）2 学部を有する名古屋市立大学が発足しました。その後、様々な変革を経て、平成 18 年 4 月 1 日、公立大学法人名古屋市立大学として、新たなスタートを切ることとなりました。

(<https://www.nagoya-cu.ac.jp/about/profile/history/index.html>)

➤ **構成員**（令和 7 年 5 月 1 日現在）

区分	人数（正規生のみ）
学部学生	4,563 名
大学院生	925 名
合計	5,488 名

区分	人数（正規職員のみ）
役員	13 名
教員	881 名
その他職員	4,002 名
合計	4,896 名

➤ **組 織**

本学ウェブサイトをご覧ください。

<https://www.nagoya-cu.ac.jp/about/operations/05091845/>

➤ **法人の役員及び審議機関**

公立大学法人名古屋市立大学には、理事長、副理事長及び理事をもって構成される役員会が設置されています。役員会は 13 名の役員で構成しており、役員のうち、2 名が学外理事です。また、法人には、法人の設立団体である名古屋市の市長が任命する監事 2 名（学外者）が置かれており、法人の業務を監査するとともに、役員会にも出席しています。

その他、審議機関として、法人の経営に関する重要事項を審議する機関である経営審議会（学外委員を含みます。）、市立大学の教育研究に関する重要事項を審議する機関である教育研究審議会が設置されています。

➤ **予算**

歳入

（単位：千円）

科目	令和 7 年度当初予算額
大学収入	20,922,449
市立大学病院収入	52,048,490
東部医療センター収入	20,205,405
西部医療センター収入	26,083,043
みどり市民病院収入	6,481,463
みらい光生病院収入	3,142,690
リハビリテーション病院収入	2,351,955
合計	131,235,495

歳出

(単位：千円)

科目		令和 7 年度当初予算額
大学費	大学費	13,616,867
	整備費	5,058,084
	外部研究資金等	2,247,498
	小計	20,922,449
市立大学病院	事業費	39,565,234
	整備費	10,434,000
	長期借入金償還金	1,558,703
	外部研究資金等	490,553
	小計	52,048,490
東部医療センター	事業費	17,746,552
	整備費	1,640,916
	長期借入金償還金	750,667
	外部研究資金等	40,000
	小計	20,178,135
西部医療センター	事業費	21,922,951
	整備費	3,150,866
	長期借入金償還金	359,743
	外部研究資金等	44,000
	小計	25,477,560
みどり市民病院	事業費	5,453,917
	整備費	926,000
	長期借入金償還金	91,546
	外部研究資金等	10,000
	小計	6,481,463
みらい光生病院	事業費	2,986,690
	整備費	151,000
	外部研究資金等	5,000
	小計	3,142,690
リハビリテーション 病院	事業費	2,232,955
	整備費	114,000
	外部研究資金等	5,000
	小計	2,351,955
合計		130,602,742

➤ **中期目標・中期計画**

中期目標は、本学が達成すべき業務運営について名古屋市長が定めた目標であり、第四期中期目標期間は令和 6 年度から令和 11 年度の 6 年間です。本学では第四期中期目標を達成するための具体的な取り組みを第四期中期計画として定めています。

(<https://www.nagoya-cu.ac.jp/about/evaluation/medium-term/>)

➤ **名市大未来プラン 2021**

「大学憲章」の精神に則り、平成 26 年 10 月に策定した「名市大未来プラン」を継承しつつ、本学の現状や社会情勢の変化を踏まえて、本学が今後進むべき方向性を長期的かつ戦略的な視点で示す道しるべとして、令和 3 年 2 月に新たに「名市大未来プラン 2021」を策定しました。この中で SDGs17 の目標達成に向けた取り組みの推進をプランの 1 つとして掲げています。

(<https://www.nagoya-cu.ac.jp/about/profile/ncuplan/>)

➤ **研究科等未来プラン 2021**

本学が今後進むべき方向性を長期的な視点で示す道しるべとして令和 3 年 2 月に策定した「名市大未来プラン 2021」を着実に実行するため、令和 4 年 1 月に、7 研究科・高等教育院・3 大学附属病院・社会貢献部門・国際部門の計 13 分野における計画を具体化させた「研究科等未来プラン 2021」を策定しました。この中で SDGs17 の目標達成実行に向けた取り組みについて、「社会貢献未来プラン 2021」で定めています。

(<https://www.nagoya-cu.ac.jp/about/profile/ncuplan/>)

➤ **環境配慮の取組の歴史**

本学は平成 20 年度より毎年度、教育・研究、社会貢献、大学運営の各活動における環境問題への取り組みの成果を環境報告書としてとりまとめています。

これまでに作成した環境報告書は本学ウェブサイトにおいてご覧いただけます。

(<https://www.nagoya-cu.ac.jp/about/environment/report/>)

【参考資料】環境報告ガイドライン（2018年版）との比較

環境報告ガイドライン 2018	ページ
環境報告の基礎情報	
1. 基本的要件	
(1) 報告対象組織	裏表紙
(2) 報告対象期間	裏表紙
(3) 基準・ガイドライン等	裏表紙
(4) 環境報告の全体像	—
2. 主な実績評価指標の推移	
主な実績評価指標の推移	16～26
環境報告の記載事項	
1. 経営責任者のコミットメント	
重要な環境課題への対応に関する経営責任者のコミットメント	1
2. ガバナンス	
(1) 事業者のガバナンス体制	2、34
(2) 重要な環境課題の管理責任者	2
(3) 重要な環境課題の管理における取締役会及び経營業務執行組織の役割	2
3. ステークホルダーエンゲージメントの状況	
(1) ステークホルダーへの対応方針	7～15、29
(2) 実施したステークホルダーエンゲージメントの概要	7～15、29
4. リスクマネジメント	
(1) リスクの特定、評価及び対応方法	—
(2) 上記の方法の全社的なリスクマネジメントにおける位置づけ	—
5. ビジネスモデル	
事業者のビジネスモデル	36
6. バリューチェーンマネジメント	
(1) バリューチェーンの概要	—
(2) グリーン調達の方針、目標・実績	27
(3) 環境配慮製品・サービスの状況	—
7. 長期ビジョン	
(1) 長期ビジョン	36
(2) 長期ビジョンの設定期間	36
(3) その期間を選択した理由	36
8. 戦略	
持続可能な社会の実現に向けた事業者の事業戦略	36
9. 重要な環境課題の特定方法	
(1) 事業者が重要な環境課題を特定した際の手順	2
(2) 特定した重要な環境課題のリスト	5、6
(3) 特定した環境課題を重要であると判断した理由	—
(4) 重要な環境課題のバウンダリー	—
10. 事業者の重要な環境課題	
(1) 取組方針・行動計画	3、5～29
(2) 実績評価指標による取組目標と取組実績	5～29
(3) 実績評価指標の算定方法	2
(4) 実績評価指標の集計範囲	裏表紙
(5) リスク・機会による財務的影響が大きい場合は、それらの影響額と算定方法	—
(6) 報告事項に独立した第三者による保証が付与されている場合は、その保証報告書	—



報告対象組織 桜山キャンパス（市大病院含む） 田辺通キャンパス
滝子キャンパス 北千種キャンパス
葵キャンパス
東部医療センター 西部医療センター
みどり市民病院 みらい光生病院
リハビリテーション病院

報告対象期間 令和7年度（令和7年4月1日～令和8年3月31日）

準拠あるいは参考にした環境報告等に関する基準又はガイドライン等

環境報告ガイドライン（2018年版）

作成部署及び連絡先 策定会議：公立大学法人名古屋市立大学環境委員会
事務担当：総務部総務課

名古屋市瑞穂区瑞穂町字川澄1 TEL 052-853-8005

公表ウェブサイト 本学ホームページ <https://www.nagoya-cu.ac.jp/>